

大会名 Competition	第21回 能代カップ 高校選抜バスケットボール大会
NO, M-115	Year Month Day Time 2008 年 5 月 5 日 15 : 15
場 所 Place	能代市総合体育館



チーム A		チーム B
台湾	( 28 1st 22 12 2nd 24 24 3rd 21 25 4th 20 OT )	能代工業
89 ○		87 ●

主審:Referee  
藤垣 庸二 宮城県  
副審:Umpire  
片寄 達 宮城県  
谷地 温 秋田県  
テーブルオフィシャル:Table officials  
能代北高等学校

No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3P	2P	FT	F	No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3P	2P	FT	F
4	×	頼 國 維	CAP	9	1	3	0	1	4	×	高橋 陽	CAP	6	0	3	0	3
5	/	彭 俊 諺		11	0	5	1	3	5	×	武藤 修平		26	0	13	0	4
6	×	李 明 暉		5	1	1	0	0	6	×	館山 健太		20	6	0	2	4
7	×	林 力 仁		9	0	3	3	3	7		飯田 啓人		-	-	-	-	0
8	/	頼 柏 霖		2	0	1	0	2	8	×	伊藤 伸高		0	0	0	0	0
9	/	張 伯 維		6	0	3	0	0	9	×	湊 大樹		12	3	1	1	3
10	/	黄 文 鉅		0	0	0	0	0	10		藤田 洸		-	-	-	-	0
11	/	楊 曙		5	0	2	1	0	11		小川 昌志		-	-	-	-	0
12	×	黄 家 明		36	0	17	2	0	12	/	宮城 大喜		23	5	3	2	1
13	/	林 永 浩		4	0	2	0	0	13		熊坂 兼		-	-	-	-	0
14	/	蘇 柏 彰		0	0	0	0	0	14		佐藤 文哉		-	-	-	-	0
15	×	周 柏 臣		2	0	1	0	2	15		西島 宏哉		-	-	-	-	0
				-	-	-	-	0	16	/	亀山 悟史		0	0	0	0	0
				-	-	-	-	0	17		三上 翔平		-	-	-	-	0
				-	-	-	-	0	18		伊藤 雄太		-	-	-	-	0
コーチ		楊 宜 峰							コーチ		佐藤 信長						
アコチ		謝 玉 娟							アコチ		安 保 敏明						
合 計				89	2	38	7	11	合 計				87	14	20	5	15

※×:スター /:交代選手 PTS:ポイント 3P:3Pポイントシュート 2P:2Pポイントシュート FT:フリースロー F:ファウル

第1Q、能代工は2-2-1ゾーンプレスから2-3ゾーン、台湾選抜はマンツーマンでスタートする。開始から台湾選抜は高さスピードで能代工のゾーンを切り崩し、レイアップやゴール下のシュートで得点を重ねる。対する能代工は、#12宮城、#6館山の3Pで応戦するが、残り5分過ぎから台湾選抜#11楊曙、#9張伯維のリバウンドシュートなどで得点を上げられる。能代工は徹底したアウトサイドシュートで活路を見いだそうとするが、決定力に欠き、28-17と点差が開く。しかし、残り1分、能代工#12宮城、#9湊のシュートで28-22とし、第1Qを終了する。

第2Q、能代工はリズムを変えようと、ディフェンスをマンツーマンに変更。これが功を奏し、ターンオーバーから能代工#5武藤のレイアップで同点とすると、その後も#9湊の3Pなどで、残り5分過ぎに31-35と一気に逆転する。台湾選抜はたまたまタイムアウトを取り、ディフェンスを3-2ゾーンに変え、立て直しを図る。その後は互いに点の取り合いが続く。残り2分、能代工は#4高橋のルーズボールから#6館山の3Pでリード。40-46と6点差で前半を終了する。

第3Q、台湾選抜は2-2-1ゾーンプレスで能代工にプレッシャーをかけると、その高さからか能代工にうまくボールを運ばせず、台湾選抜#12黄家明のインサイドプレーなどにより、開始4分で再逆転に成功する。しかし、能代工は#12宮城の3Pなどで応戦。台湾選抜もさらに#12黄家明が続けてローポストから加点するなど、点の取り合いが続く。結局、64-67の能代工3点リードで第3Qを終了する。

第4Q、台湾選抜はディフェンスをオールコートマンツーマンに変えると、能代工はイージーミスを連発。台湾選抜#7林力仁のレイアップで再々逆転に成功する。しかし、能代工業も奮闘し、その後は一進一退の攻防が続く。残り2分、能代工は好調の#12宮城の3Pで79-79の同点とするが、直後にパスミスで台湾選抜に引き離される。その後、能代工#12宮城が再び3Pを決め85-84とすると、会場はこの日一番の盛り上がりとなる。勢いに乗りたいた能代工だが、台湾選抜#5彭俊諺、#12黄家明にシュートを決められ、89-84と再び引き離される。残り20秒、能代工#6館山の起死回生の3Pが決まり、89-87と2点差とするが、ここでタイムアップ。結局イージーミスの少ない台湾選抜が逃げ切り、勝利した。